

令和2年4月20日（月）
福井工業大学附属福井中学校・福井高等学校の生徒の皆さんへ
校長 佐々木栄秀

【はじめに】

福井工業大学附属福井中学校および福井高校の生徒の皆さん、お元気ですか。なかなか学校が始まらず、友だちとも会えずに、また十分に勉強やスポーツもできず、毎日どのように過ごしていますか。

現在のところ、本校の教職員や生徒の皆さんの新型コロナウイルスへの感染者はいません。報告を受けていません。皆さん、外出自粛要請に応え、家で過ごしているものと確信しております。感謝します。5月7日には学校を再開する予定です。休校明けに元気に学校の生活や活動をするためにも、もうしばらく外出を我慢してください。

【新型コロナウイルス感染症の状況と対策】

4月14日に福井県知事から「福井県緊急事態宣言」および「県民行動指針(Ver. 2)」が発出され、以下のとおり、一人ひとりの自覚と行動自粛が求められております。抜粋ですが、今一度確認をします。

県民行動指針(Ver. 2) 【抜粋】

- 1 不要不急の外出・会合を自粛
- 2 感染防止対策の徹底（こまめな手洗い・うがい、マスク着用）
- 3 感染リスクが高まる密閉・密集・密接の場を
「つぐらない」「近づかない」
- 4 必要以上の買い物を控えるなど、冷静な行動をする
- 5 人権・個人情報保護を徹底
(医療従事者等への誤解・偏見に基づく差別をしない)

福井県の場合、大都市圏と違って、感染経路が不明な感染者は少ないというものの、人口比（10万人あたり）の感染者数は全国3位であることを考慮すれば、全県民が新型コロナウイルス対策を厳守することが重要であると思います。

基本的に、ウイルスに近づかない。ウイルスを近づけない。そのために極力外出を自粛してください。感染から重症化および死へのスピードが速いことや感染していても症状が表われない人がいることが、この感染症の最も恐ろしいところです。自分の周りの感染状況が不明であるため、常に「3密」を避け、マスクを着用し、大きな声での会話を避け、人と接触しないように2メートル以上の距離をあけるなどしてください。また、外から帰宅したら、15秒間手

を洗い、うがいをして、自分の身は自分で守ってください。同時に、家族・友人・大事な人を守り、学校・社会のシステムを守ってください。

感染症の兆候（37度以上の発熱、咳、倦怠感、呼吸困難、頭痛、味覚・臭覚障害など）があれば、まず、近くの保健所に電話をして、指示に従ってください。この休校期間であっても、その状況を学校にも報告してください。

また、濃厚接触またはその疑いがあるときには、2週間の経過観察を経て、PCR検査で二日続けて陰性が出て感染していないことが証明されなければ登校はできません。とにかく今は、学校再開後に元気に登校できるよう、5月の連休明けまで、これまで同様、十分気をつけて生活してください。予防対策もせずに外出することは厳禁です。一番の対策は、外出を控え、ウイルスに近づかないことです。

【県外生へ】

福井県同様、日本各地で緊急事態宣言等が出ています。休業明けに、他県から登校する生徒の皆さん、特に、感染経路が不明な感染者が多い都道府県の皆さんは、誰にでも感染の可能性があると言われております。ウイルスに近づかないためには外出を控えることしか防止策はありませんので、よろしく願います。

【生活のリズムを】

4月8日の「始業式の式辞に代えて」で皆さんにお願いと挨拶をしてから、10日が経ちました。生活は充実していますか。リズムが狂っていませんか。教科書の予習や課題およびスタディサプリやeライブラリーは順調に進んでいますか。それぞれの目標や進路、力を入れる分野は様々ですが、勉強は必須です。今後の18日間も、学校生活と同じリズムで家でも生活をしましょう。

午前中は、国数英の3教科中心に勉強しましょう。予習・復習・課題は確実にこなしましょう。午後は、自分を見つめる時間にしましょう。学校が始まってしまうと、ゆっくり「自己を見直す」時間をとることができません。自分は今からどうするのか。何がしたいのか。将来どんな仕事をしたいのか。などを想像・空想するのもいいでしょう。また、体を動かすのもいいでしょう。

「新型コロナ鬱」などという言葉まで出てきているようです。体を動かさない生活、家に閉じこもりきりの生活、携帯やゲームばかりの生活などに、精神が悲鳴を上げてしまうのです。昼は、気持ちのリフレッシュタイムとしましょう。そして、夜は、個人の目標に合わせた勉強・活動をするのがいいでしょう。

【家族への感謝】

また、普段、家の手伝いなどはしていない生徒が多いと思いますので、この休校期間に、掃除や食事などの家事の手伝いや畑仕事などの手伝いをしてはいかがでしょうか。家族の一員であることを自覚することも大切であり、当たり前にご飯を食べられたり、部屋が綺麗であったり、毎日清潔な服が着られることに感謝してほしいと思います。親や家族に感謝してほしいと思います。

【アドバイス】

本来であれば、年度初めの4月には各学年・各学科に応じたオリエンテーションをしたいところでしたが、残念ながら叶わないので、私からアドバイスを送りたいと思います。私は、24年間進学校で教壇に立ち英語を教え、その後、教頭・校長を5年間、県教育委員会で9年間、計38年間の教員生活を終え、昨年本校に赴任しました。これらの経験から言えることや感じてきたことの総括と分析をお話します。

本校には、大学・短大・専門学校に進学する生徒、看護師・工業・情報系の資格を取って就職する生徒、デザインなどのコンテストで賞を取りたい生徒、スポーツで全国一を目指す生徒など多様な人材が集まっていますので、各自の目標も多様です。それぞれの目標を応援する教育をしていきたいと思います。

学校からは、この期間に勉強する教材、課題を提供しているとは思いますが、勉強するのは皆さんです。教員が、皆さんの家での行動を逐一注意できるわけではありません。皆さんの勉強の進み具合をチェックすることはできません。スポーツで入学してきた生徒も同様で、各自、体力を增強し、体幹を鍛え、すぐに練習に入れる準備をしておく必要があります。体のキレがなく、贅肉を付けた体では、本校の練習にはついていけません。学習も運動も各自がしっかりやってください。

特に、今年は、この状況のために中高の3年生と衛生看護科専攻科の5年生の皆さんにはとても過酷な一年になりそうです。どんなに今年度のスタートが遅れたとしても、終わりの期限は決まっています。学習のスタートが1か月遅れても、就職試験、入学試験、国家試験、資格試験について、準備はまだ十分ではありませんとか、まだ範囲の勉強を終えていませんなどという言い訳は誰も聞いてくれません。従って、本来なら学校が始まっているこの時期の家庭学習は非常に重要であり、その勉強は皆さんに任されているのです。各自が計画を立て、自主的に主体的に学習に取り組んでください。

【国語・英語の言語系教科について】

日本語であれ英語であれ、文章を読んで、要点をつかんだり、要約したり、問いに対して的確に答えたり、また読後に分析し意見を述べたり、文字にして発表したりするなどの訓練を日々しておく必要があります。また、自然科学、社会科学、政治経済、哲学・宗教など様々な内容の文章を、また、小説、評論、説明文、随筆、紀行文など様々なスタイルの文章を読んでおく必要があります。一番手っ取り早いのは、普段から多くの分野を含む新聞を読み、要約し、考えをまとめるなどの訓練をしておくのがいいでしょう。速読できるかどうか大きな武器になります。SNSのニュース等は、不確定な無責任な記事もあり、デマまであるので、あまりお勧めできません。

言語系の教科にとって、文法や単語・熟語は武器となりますが、それよりも読解力や表現力が大きな武器であり、最終段階ではこれが必要です。この力を伸ばす学習・練習が必要です。もとより、数学は数字の論理・国語であり、英語については、英語で読み取ったり聞き取ったりいたりした内容を表現したり、その内容についての思考をさらに深めるのは母国語です。要は、5教科の基本は国語力であり、読解力、思考力、表現力が重要です。

英語のリスニング力を伸ばすことを始めてください。従来のセンター試験では、記述200：リスニング50でしたが、今後は、100：100になります。また、多様な国の英語も聞いておく必要があります。材料は、映画でもニュースでも問題集でも何でもいいので、1日30分聞いて下さい。毎日トレーニングをしないと本番の30分は聞けない。聞く耐性をつけてください。

【数学について】

数学における大学入試の最初の難関は、センター試験のマーク式の問い。自分の思惑で問題を解くことができずに、相手の誘導にあわせて答えを導かなくてはならない。記述式での解答であれば簡単なものが、自分が得てでない解き方を強いられるために答えられない場合があります。最近では、授業で一つの問題に対して、数学のテクニックをいろいろ使って問題を解く訓練もしているようですが、柔軟な考え方・解き方が必要になっています。また、大学の二次試験では、通常の模擬試験とは違って、複数の概念を使って解答に向かわないと解けないものがあります。模擬試験の基本的な問題に比べ、入試問題は深い。東大の「整数問題」が難問と言われるゆえんであり、柔軟性が問われます。ここで、過去に東大に合格した生徒の数学の学習法を紹介すると、当然ながら、毎日の予習では問題集の数題ずつを解いて授業に臨み、考査1週間前にも範囲のすべての問題（100題ほど）を解き、テストの前日には、仕上げに全ての問題を解きスピードも磨いたそうです。問題が基本形で出題されれば、完璧な答案を書くまでに仕上がっており、応用問題になったときは、その基本の定着が役立つのだそうです。完璧にものをこなすというのはこういうことであり、毎日勉強しながら、すでに入試の出題を意識しているのである。

【理科・社会について】

物理・化学は2年生に基本分野、3年生で応用的な分野を学習するのだが、どの分野も重要であり、2年間授業の学習に合わせて入試問題も解きながら進めることになり、つねに入試問題を意識して学習することが重要です。物化の時間数を多く確保できないために、数学と違って教科書を早く進めて演習時間を捻出するなどの技は使えないので、学習している分野の演習を平行して学習を進めることが重要です。

世界史・日本史は社会に出て役立つ教科である。物事の戦略を練る時に、歴史に学ぶことは重要です。歴史は、とにかく、教科書を通読する癖を付けることとあります。センター試験の地歴科の問題文・設問部分の読む量は半端なく多いので、読むスピードと読解のポイントの見極めが重要です。

【スポーツについて】

今年の正月に、1月の3日4日に女子サッカーの全国大会の応援に兵庫県へ、5日～7日に男女の春高バレーの応援に東京に行きました。そこで私が感じた（バレーボールの専門家ではないが）全国の壁についてお話しします。

女子は、2回戦で九州文化学園（長崎）と戦った。前年度、国体で、三国の体育館で負けた相手で、3枚大きい選手がおり苦戦を強いられるかと予想されたが、完ぺきなゲーム展開だった。サーブミスはゼロ。ほとんどミスなしのサーブカット。全員が当たりで当たった。気持ちの入ったゲームだった。翌日、ベスト8をかけて、八王子実践（東京）との一戦。優勝候補の下北沢成徳を破って勝ち上がってきた、伝統校である。高さでは引けを取るが、プレーでは一進一退。ポイントは第一セット。相手のミスに乘じ24-21の3点リード。3本のうち1本取れば1セットを取れるところで、勝ちきれなかった。結局、第1セットを27-29で落とした。第2セットは25-21で取り返したが、第3セットは力及ばず17-25で落とした。実に惜しいゲームだった。あと一枚勝ち切る手立てがあればと悔やんだ。オーストラリアの修学旅行で、2年生エース（ほのかさん）と話す機会があって、あの場面が私たちの課題ですと言いつけてくれた。非常に頼もしく今年は期待が持てそうです。

一方、男子。ミスが非常に多いが実力があるのは折り紙付きで、2回戦までなんとか勝ち進んだ。3回戦はベスト8をかけた清風（大阪）戦。練習試合でも勝ったことのあるチームということで、私は、ここを超えればベスト4まで行けるのではという淡い期待をもっていたが、実際には厳しい結果になった。第1セットはミスばかりで、15-25の完敗。そして、問題の第2セット。24-21でリード。女子の場合と同じで、3本のうち1本取ればセットを取れるところまで来た。しかし、相手は心が強く、この状況でもサーブをガンガン打って大胆に攻めてきた。結局並ばれ、24-26でセットを取られた。結局、詰めの局面で5ポイント連取されたのである。さあ、この違いは何か。バレーボールは相手コートにボールを打ち落とすゲームであり、フォーメーショ

ンやレシーブカもあるが、スパイクとサーブがすべてである。本校のエース二人のサーブは、トスの高さや距離が一定せず、ジャンプをしながらボールに合わせて態勢を調整しているのである。トスが長ければ、ジャンプが届かずボールがネットに引っ掛かり、トスが短ければ、ジャンプがかぶりすぎてふかしてしまい、バックラインオーバー。トスの距離と高さがぴったりあった時には、爆発力のあるボールがコートに炸裂するのである。一方、清風や東山（京都代表で優勝校）のサーブを見ていると、トスの高さや距離が一定であり、ジャンプまでの動作が簡単で、一定のリズムがあり、どのサーブでも思いっきり打ち、ボールをコート内に炸裂させた。スパイクは、セッターがトスを上げるのだが、これもサーブと同じで、セッターとアタッカーの息がぴったり合っていた。後日、東山のエース（のちに高校生でただ一人全日本に入った）とセッターは最初全く息が合わず、死ぬほど練習をしたと話しているニュースを見た時に、全国で勝つということは、当然簡単なことではなく、順調にきたわけでもなく、誰もが苦勞して練習を重ね頂点を極めているのだということを肝に銘じて精進すべきであると実感した。「練習は試合のように、試合は練習のように。」練習の目的・意義や質の向上がすべてである。これはどのスポーツにも、学習にも言えることであり、福井中高校生みんなに共通する心構えであると思います。

【特別進学科について】

高校に入ると、学習の質が2倍、学習の量が2倍、学習のスピードが2倍になります。合わせて、6倍???いや2³ですから8倍です。これは中学3年生の1年間の学習が、8倍つまり、1/8の期間、1.5か月の期間で追いつくことになります。高校入学時に多少差はあっても、高校入学後には、心がけ次第で簡単に逆転します。そんな生徒をたくさん見てきました。逆に激しく落ちていく生徒も何人も見えています。特に、今年この休校期間では、学習が個人に任されていますから、登校している時よりもはるかに大きな差になります。2.3年生も含め、ぜひとも、自分を律しコントロールして学習に向ってください。特進科の生徒の皆さんが戦う相手は全国の生徒です。何歩も前を走っている全国のライバルです。友達と切磋琢磨し、集団戦で受験に立ち向かいましょう。

【最後に】

最後に、本校にも衛生看護科があり、多くの生徒を県内の病院に看護師として輩出しているが、今年ほど医療の尊さや医療従事者への尊敬の念をこれほど感じたことはありません。感染するかもしれない恐怖と隣り合わせで仕事しておられ、装備が十分整わなくても、患者のために身を削って、寝る間も惜しんで勤務していただいていることに感謝申し上げます。普通の人間ではお手伝いすることもできないですが、せめて、彼らの仕事を増やさないことが、医療崩

壊の防止になるのであれば、私たちは、「外出自粛」、これぐらいはしっかり守るべきだと思います。

ましてや、誤解や偏見で医療従事者やその家族が、差別や誹謗中傷を受けることなどはあってはならず、人間としてあるまじき行為です。彼らのおかげで社会が持ちこたえ、水際で防いでいただいていることに尊敬の気持ちが持てないようでは、人間終わりであります。ぜひ、みんなで、医療従事者の方々に感謝し、自分のできることをしてほしいと思います。